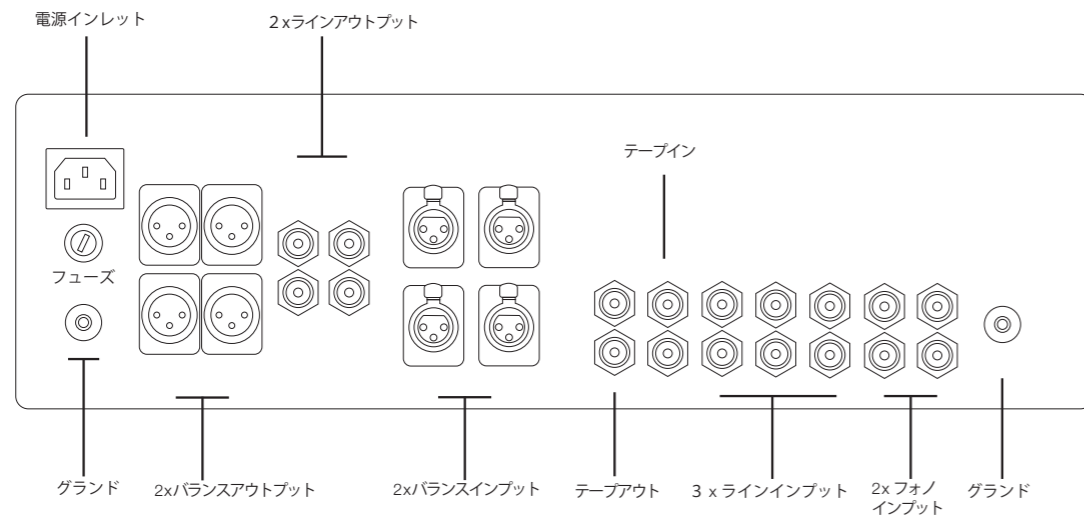


# Specifications

- フォノ入力: RCAx 2 系統
- ライン入力: RCAx 3 系統、XLRx 2 系統
- テープ入力: RCAx 1 系統
- テープアウト: RCAx 1 系統
- 出力: RCAx 2 系統、XLRx 2 系統
- ラインアンプゲイン: 14dB=775mV for 0 dB V.U.
- ラインアンプ:
  - S/N 比 = 90dB (1v out ref)
  - 歪率 = Less than 0.1% 1KHz 3v out
  - 周波数特性 = 20-20kHz +0,-0.3dB
  - 最大出力 = 6v 600Ω
- フォノセクション: 入力2系統 (MM / MC)
- 入力インピーダンス: MM = 47KΩ
  - オーバーロードマージン = 28dB
  - MC セレクション = 40Ω、12Ω、6Ω、3Ω
  - ゲインセッティング = 0、-6、-12dB
  - ゲイン MM = 2.4mV for 0 dB V.U.(50dB)
  - ゲイン MC = 0.24、0.15、0.1、0.06mV@1kHz (70dB)(73dB)(76dB)(80dB)
  - RIAA Accuracy = 0.2dB、30Hz - 20KHz
  - S/N 比 = 68dB ref 2.4mv unweighted
- 使用真空管: PCC88(7DJ8) x5 または ECC88(6DJ8) x 5
- 消費電力: 30W
- 重量: 13.5kg
- サイズ: W485 x H145 x D300mm



# EAR 912

Designed by Tim de Paravicini



Studio Pre-Amplifier



### 安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「取扱説明書」をお読みください。  
 ●水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、感電、故障等の原因となることがあります。

●このカタログの内容についてのお問い合わせは、お近くの販売店へ。もし販売店でおわかりにならない場合は、弊社のカスタマーサポートへおたずねください。●このカタログに掲載の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。●写真の製品の色は、印刷により実際の色とは異なって見える場合があります。ハガキによるカタログの請求は希望商品名をご記入の上、弊社住所までご依頼ください。

●カタログに掲載されている製品には保証書が添付されています。お買い求めの際は購入年月日など所定事項が記入されているかどうか確認の上、大切に保存してください。●製造番号は品質管理上重要なものです。ご購入の際は製造番号をご確認ください。

お客様サポート <http://www.yoshinotrading.jp/contact-us/>

商品に関するお問い合わせおよびカタログのご請求は下記のカスタマーサポートへお電話でどうぞ。メールマガジン登録とカタログの送付申し込みもこちらから行えます。

●営業時間 / 月曜～金曜 9:00～18:00 (土曜・日曜、弊社休業日除く)  
 ●一般電話 050-3375-3975 ●FAX 受付 03-4333-0399

**IASJ** YoshinoTrading  
 International Audio Society of JAPAN ヨシノトレーディング株式会社 443-0005 愛知県蒲郡市水竹町上大塔 49-1

2018/2019 年版

# Design



## パラヴィチーニ／EARの集大成と呼ぶべき最高級プロ仕様プリアンプ。

「EAR 912 / Professional Tube Control Centre」は、半世紀近くに及ぶティム・デ・パラヴィチーニのプロスタジオワークの経験に基づいたノウハウが結晶した、音楽再生装置の集大成とも言える最高級管球式プリアンプ（コントロールアンプ）としてデザインされています。

プロスタジオにおいて、最終的に人々の手に渡ってゆくアナログ・レコードやCD等のソフトの原盤を作成する作業をマスタリングと言います。例えばアナログ・レコードの場合、マスターテープ等に収録された音源を再生し、その音楽信号をラッカー盤と呼ばれるやや柔らかいビニール盤の表面に、カッティングマシン(Lathe)を使って音溝を刻み込んで行きます。このグルーブ（音溝）が刻まれた盤をプレイバックし、どのような音質、音量、音圧であるかをチェックします。つまりこの時の音楽の響き方が、世界中の人々が自宅のリビングルームで耳にする音楽の響きとなるのです。ゆえに、いかにマスターテープ等に吹きこまれたオリジナル音源に近い状態で再生出来ているか、そこに装置の持つ固有のクセが影響していないかどうかをチェックする事が非常に重要になるのです。

「EAR 912」は、このようなシビアなプロ的环境下での使用を目的としてデザインされたプロフェッショナル・コントロール・センターです。入力された音楽信号を、その鮮度とダイナミクスと音楽性を保ったまま、いかに出力出来るか、これは簡単そうに聞こえますが、実に難しいエレクトロニクス技術なのです。「EAR 912」は、それを実現させるために、パラヴィチーニサウンドの奥義とも言える真空管とトランスフォーマーを独自の回路で結合させた「トランスカップリング」の技巧をサーキット全編に渡って散りばめ、ワイドレンジとナチュラルな音楽描写、しかし決して冷淡にならない、しなやかな優しさを持ち合わせます。世界のトップスタジオやミュージシャン、エンジニア達が求めるマスターサウンドが貴方のリビングルームで楽しめます。



## 研ぎ澄まされたフォノステージとハイスpek機能をもした、プロスタジオのハイクオリティーサウンドを操る。

特徴的な機能の1つとしてMCカートリッジの昇圧トランスを内蔵したハイクオリティーなフォノステージが挙げられます。MCフォノ入力は、3、6、12、40Ωが設けられ、様々なMCカートリッジに対応。MMセクションは47kΩとし、入力はダイレクトに初段の双三極管（ECC88 ※1）へ接続されます。MM/MCの切換えが可能。Stereo/Monoスイッチも設けられ、Decca、RCA、Capitol等の1950年代以前の素晴らしいMono録音も楽しめます。2系統のフォノ入力は、2つのターンテーブルを接続したり、ダブルアーム仕様によるトーンアームやカートリッジのバリエーションを楽しめます。管球をベースとしたRIAAイコライゼーションサーキットには、キャパシターは使わず、パラヴィチーニがカスタムワインディングしたインダクターが使用され、またフォノステージからラインステージへの移行もトランスフォーマーを介して行われます。

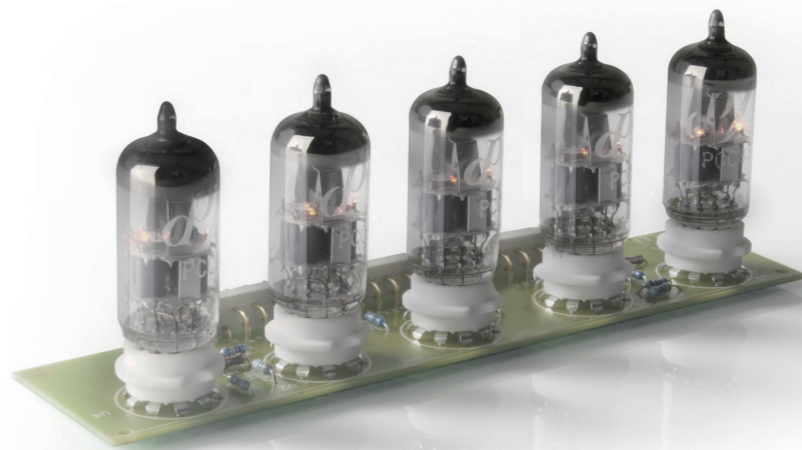
これにより、高いスタビリティとヘッドルーム、ローノイズ、低歪みを実現。「EAR 912」は全てシングルエンドのビュアクラスAサーキットを採用。トランスによるサーキットアブローチは、電気的な効率やビュアなサウンドクオリティーを高めるだけでなく機能を多様化できるメリットも生み、3ポジションのアッテネータースイッチはトランスの2次側にタップを設け、フルゲイン、-6dB、-12dBが選べます。これにより抵抗式アッテネーターで問題となる様々なソースとのインピーダンスのマッチングから開放され、VUメーターのレベルをモニターしながら様々なカートリッジのベストなセッティングを引き出せます。入力切換えは、バランス1、バランス2、フォノ、CD、AUX1、AUX2。またミュートスイッチ、テープモニター等、プロスタジオユースの機能が満載され、ハイクオリティーな音質をコントロールする喜びを楽しめます。

# Performance

## チューブパワー&テクノロジー

現在ではほとんどその役目を終え、一般的な電気製品の回路の用途（増幅や整流など）としては、半導体に主役の座を譲った真空管ですが、オーディオアンプやギターアンプ等では、未だに現役最前線で活躍している事はご存知の通りです。真空管の利点には諸説がありますが、主に音響装置に多くの製品供給を見つることが出来る最大の理由は、理屈抜きに「音の響きが好き」と感じる人々が多く存在するから他にありません。

「King of Tube」の異名を持つパラヴィチーニは、デザインされた作品の多くに真空管を多用しています。しかし、真空管の響き以上に、真空管自体が持つ機能的な特性に着目して装置の回路を構築するため、真空管の種類にはそれほどこだわらず、なるべく長期の使用に耐えられるような供給量の豊富な型番を選びます。真空管のアドバンテージとしてパラヴィチーニが考慮するポイントは、まず平均的に見てゲインがトランジスタよりも高いこと、トランジスタのような蓄積時間（スイッチングタイム）が真空管にはほとんど無いため、非常にハイスピードであること、また高周波のハイパワーが出力できること。これらの特徴を後述する広帯域、高効率のトランスフォーマーと上手にマッチングさせ、そこに回路設計の妙が組み合わされてパラヴィチーニ／EARサウンドはデザインされます。「EAR 912」は双三極管PCC88※1を、フォノ部に3本、ライン部に2本の合計5本を使用した回路を採用しています。



## トランスフォーマー・レヴオリューション

パラヴィチーニ／EARサウンドの中核であり、システムの心臓部とも言えるトランスフォーマー。一般的に1つの回路から交流電力を供給され、電磁誘導作用により他の回路に電力を供給する装置、つまり電気エネルギーを磁気エネルギーに変換し、さらに電気エネルギーに変換する装置を指します。トランスは主に銅線を鉄心（コア）に何百、或いは何千回と巻きつけた構造をしています。変換効率に優れ（損失が低い）音楽的な美しい響きを持つトランスフォーマーを造ることは簡単ではありません。巻線のゲージ（太さ）やターン数（巻数）、テンション（巻く強さ）、巻き方（巻線の重ね方）等々のファクターが複雑に関係しあって音色が変化します。トランスに限らず、同様の巻線（コイル）構造を有する音響装置であるスピーカーやマイク、レコードプレーヤーのカートリッジ、またギター用のマイク（ピックアップ）等も、これらのコイルの構成要素が、独自の音色を造り出します。しかし、これらの要素を上手に導き出して設計しないと直ぐに様々な損失が発生して変換効率が低下します。特に高周波は巻線の抵抗値が増加して変換効率が格段に落ちるという短所があります。真空管アンプの「ウォームなサウンド」とは、実は綺麗な高域を出力できない、変換効率の悪いトランスの音と言っても過言ではありません。トランス造りの名匠でもあるパラヴィチーニが長年の経験で得た技巧を駆使し、使用する真空管と回路特性を考慮しながら手巻きでデザインしたオリジナルの高効率・広帯域トランスが、あのEARの澄み通るような高域を創り出しているのです。



## 非凡なセンスを感じさせるオリジナルサーキット

アナログレコードファン、また最新のデジタルマルチソースラインシステムにおいても、最高音質が楽しめるように、「真空管トランスカップリング」の技巧がサーキット全編に渡って散りばめられています。全てのバランス(2系統)/アンバランス(3系統)入力はリレーを介して切換えられます。内部回路を可能な限り短くして音質劣化を防ぐ配慮がなされ、入出力用のコネクター類は、全てサーキットボードにダイレクトマウント。リモコン操作が可能なアナログ式ヴォリュームコントロールも最高品質のパーツが使用されています。アウトプットステージにおいて、「EAR 912」にはそれぞれフォノとXLRステージの出力段に、特性に合わせて個別にワインディングされた出力トランスを持ち、出力トランスの1次側は最終段の双三極管：PCC88※1のアノードサーキットへ、そして2次側はそれぞれ2系統ずつ設けられたバランス（XLR）とアンバランス（RCA）のアウトプットへ接続され、ハムのループをも排除しています。また、バランス2系統、及びアンバランス2系統のアウトプットは同時出力が可能となっており、トータルで4つのステレオシステムに接続が可能です。バイアンプ接続や、様々なシステムアップにも対応でき、まさに「コントロールセンター」に相応しい贅沢なミュージックライフを堪能出来るでしょう。

※1 PCC88(7DJ8)x5 または ECC88(6DJ8)x5

